

# 第4章

## 連続性・一貫性 のある実践例

幼児期の教育と小学校教育、家庭教育をつなぐ実践例を取り上げています。  
保育園・幼稚園での経験が、小学校の教育とどのようにつながっているのかを、2点で表しています。

- ①「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分
- ②「港区立小中学校 MINATOカリキュラム」の各教科につながる部分

さらに、保育園・幼稚園、小学校、家庭の三者は互いに連携して教育にあたることから、家庭教育とのつながりも載せています。

\*「港区立小中学校 MINATOカリキュラム」とは、小中学校の指導の内容を教科ごとに単元系統配列表にまとめたカリキュラムです。

ねらい

- リレー遊びのルールを理解し、チームの友達と相談したり、練習をしたりして同じ目的をもって取り組む楽しさを味わう。
- 走る順番や作戦などについて考えを出し合い、チームの友達と力を合わせて取り組む。



環境の構成

- リレー遊びが自分たちで始められるよう、コーン、バトン、カラー帽子、アンカーたすき、ゼッケン等を用意しておく。これらの遊具の置き場所や片付け方、個数、色などの表示を付けておく。
- 小学生が行っているリレーの姿を見る機会をとらえて、憧れの気持ちや意欲につなげる。
- 小学生が思い切り走る姿や、コーナーの回り方、バトンの受け渡し方などについても話題にして目標を明確にする。

子どもの姿

- 以前に小学生や前年度の年長組がやっていたリレーを思い出し、遊び始める。
- 初めは走ることが楽しく、エンドレスリレーを楽しんでいるが、次第に勝負のあるリレーを楽しむようになる。
- チーム分けをするために、仲間の人数を数えたり、同じ数になるように1対1で対応させたりしている。人数が同数にならないと、友達を探してきてチームに加えたり、一人が2回走ったりするなどしている。
- 友達の走りにも目が向き、走る速さや相手、勝負を意識して走るようになる。
- リレーに勝つと喜ぶ一方で、負けると悔しがったり、泣いたりする幼児も出てくる。

指導(援助)のポイント

リレー遊びが成立するための必要なルールを、幼児と共に考え、共通化する。

指導(援助)のポイント

1対1の対応や人数が多い少ないなど、自分たちで考えながらチーム分けしている姿を認め、よりよい方法を共に見出していく。

指導(援助)のポイント

様々な気持ちに寄り添い、共感する。

経験している内容

- 思い切り走る楽しさを感じる。
- ルールの必要性に気づき、自分たちでルールを考えて決め、守って遊ぶ。
- チームの人数を数えたり、同じ数にするための方法を考えたりする。
- チームの目的に向かって、力いっぱい走る。
- リレーに勝ってうれしい、負けて悔しい気持ちを味わう。

期待される育ちや学び

- リレー遊びでは、チームの人数を数えること、2チームの人数の比較、同じ数、走る距離(長短)や速さ(時間)、走る順番、チームの相手を意識して走ることなど、数量に関する出合いの場面がたくさんある。幼児自身が実際の遊びや生活の中で体験を通して、自分で考え、気づき、理解できた学びが、数量の感覚を豊かにすることにつながっていく。
- 勝敗のある遊びを通して、負けて悔しい、勝ってうれしいなど様々な感情を味わうことが、小学校以降で出会う多少の困難や葛藤の場面においても、前向きに乗り越えようとする力につながっていく。

## 小 学 校 教 育 と の つ な が り

### ①「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 学習の中で発見する喜びや、できるようになった喜びを味わう。
- 授業中、先生や友達と対話する中で、その言葉の意味を理解して、自分にはなかった気付きや発見を喜ぶ。
- 困った時や話したいことがあるとき、自分の言葉で考えて自分から伝える。
- 教室内、学校内にある表示や図、文字等の意味を理解する。



### ②「港区立小中学校 MINATOカリキュラム」の各教科につながる部分

**算数** (MINATOカリキュラム 算数 P4参照)

整数の意味と表し方 「10までの数」「20までの数」  
具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す  
整数の加法・減法 「1位数の加法・減法」「簡単な2位数の加法・減法」

**体育** (MINATOカリキュラム 体育 P8参照) 走の運動遊び

競い合う楽しさ、調子よく走る 体を巧みに操作する  
「1・2年生:折り返しリレー遊び」  
低い障害物を置いてのリレー遊び」



## 家 庭 教 育 と の つ な が り

- 家庭でも文字や数への興味がわくような環境を整えてもらうとともに、ドリルや習い事に頼らずとも、買い物や手伝い等の身近な実体験を通して、数量への関心や豊かな感覚が養えることへ理解を促す。
- 競い合うことを通して様々な感情体験を味わうことが、心の成長につながることを踏まえ、負けて友達のせいになしたり、やりたくないなど落ち込んだりしても、自ら乗り越えていけるよう、家庭でも十分に気持ちを受け止めてもらう。

ねらい

- 活動の区切りや時間を意識して生活する。
- 一日の生活の流れが分かり、自分から進んで行動しようとする。



環境の構成

- 一日の生活の流れが分かり、自分たちで決めた時間に、遊具の片付けや準備が始められるよう、学級(クラス)で話し合いの機会をもち、見通しをもって活動する大切さを子どもたちと確認していく。
- 本物の時計の横に手作りの時計を置き、集合する時刻を示す数字に印を付けておく。

子どもの姿

- 毎日の繰り返しの中で、集合の時刻を少しずつ意識し始めている。
- 時計を見て気付いた幼児が、友達に知らせたり、自ら率先して片付けをしたりして、得意気に席に着いている。
- 会が始まる前に、友達同士で声をかけ合い、トイレや手洗いうがいを済ませている。
- 遊びに夢中になり、周りの友達が集合していることに気付かずに会に遅れてしまう姿もある。

指導(援助)のポイント

自分で気付いて行動できたことをクラスの中でしっかり認めていく。

指導(援助)のポイント

時間を守って生活することは大切なことであることや気持ちがよいということをみんなでも共有する。

経験している内容

- 一日の生活の見通しをもって行動する。
- 片付けにかかる時間(量)の感覚が分かる。
- 自分で時間を意識して行動することの大切さを感じる。
- 学級(クラス)のみんなが時間通りに集合できたことを気持ちよいと感じる。

期待される育ちや学び

- 自ら主体的に遊ぶ遊びの時間には、十分に遊んだという充実感や満足感、また集合時には友達と活動に取り組んだ充実感や満足感を味わうなど、メリハリのある生活を組み立てることで、時間に対する概念や感覚が養われ、意識した行動がとれるようになっていく。
- みんなで気持ちよい生活を送るためには、時間を守ることが大切であるということを、折に触れて気付かせることで、時間を守ることの必要性を理解したり、自分で考えて行動したりすることにつながっていく。

## 小学校教育とのつながり

### ①「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 時間割に合わせて教科書や必要な道具を準備する。
- 安全な登下校方法を知り、通学する。  
(登校時刻、下校時刻、放課GO等)
- 一日の流れを理解し、時間割に沿って生活する。



- 授業に間に合うように、体操着に着替えたり、特別教室(音楽室、体育館等)へ移動したりする。



### ②「港区立小中学校 MINATOカリキュラム」の各教科につながる部分

**算数** (MINATOカリキュラム 算数 P4参照)

数と計算:整数の意味と表し方 「10までの数」「20までの数」  
量と測定:時刻の読み方 時間の単位 「〇時〇分」



## 家庭教育とのつながり

- 起きる時刻、寝る時刻、食事の時刻、お風呂に入る時刻などを子どもと一緒に決めてもらい、子どもにとってふさわしい生活リズムが小学校での学習習慣や学習態度につながることへの理解を促す。
- 子どもが時間の感覚を養い、見通しをもって行動する経験を積み重ねられるように、毎朝、家を出る時刻に間に合うように自分で準備や身支度をする生活を心がけてもらう。

## ねらい

- 修了を意識し、園生活で楽しかったことや頑張ったことなどを振り返り、自分の成長を感じる。
- 自信をもって自分の考えを伝え、友達の言葉にも真剣に耳を傾けて互いの考えを受け止め合い、気持ちに共感し合う。



## 環境の構成

- 円形や馬蹄形など、みんなの顔が見えるように椅子を配置し、互いの発言に関心をもち受け止め合える雰囲気をつくる。
- 話し合う内容が分かり、園での経験が思い起こされるような掲示物（作品や写真等）を用意する。
- 話し合われたことが共有できるように文字や文章にして掲示する。（ホワイトボード、模造紙への記入など）

## 子どもの姿

- 教師の話や掲示物などから楽しかった園生活を思い出し、伝えたいことを挙手をして発言する。
- 友達の話を聞いてそのときのことを思い出し、共感の声をあげたり、自分が思ったことを口々に付け加えたりする。
- 声が小さかったり、周囲がざわついて聞き取りにくかったり、言葉が足りなかったりして話が分かりにくいときに、「みんな静かに!」「もう一回言って」「○○ってということ?」などの声があがる。
- 話をした友達の思いをみんなで共有し、それに合ったふさわしい言葉や文章で話し合う。

## 指導(援助)のポイント

うなずきながら聞いたり、ホワイトボードに書き起こしたりして、受け止められたことを実感し、自信がもてるようにする。

## 指導(援助)のポイント

自分たちで話し合いを進めようとする姿を認めながら、声の大きさなどの伝え方と、話を聞く側の態度について改めて指導し、幼児自身が意識できるようにする。

## 経験している内容

- 経験したことを思い出し、伝えたいできごとや思いを自分の言葉で表す。
- 友達の話に興味をもち、状況を思い浮かべたり、話の内容に共感したりしながら聞く。
- 話の内容が、より聞き手に伝わるような言葉や文を考え、自分の気持ちを様々な言葉で表現する楽しさを味わう。

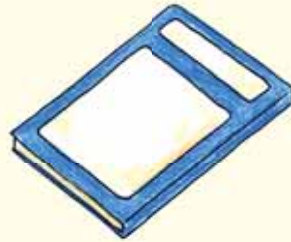
## 期待される育ちや学び

- 修了を間近に控えたこの時期には、自分の考えを相手に分かるように話すこと、相手の話をよく聞いて理解しようとすることへの意欲や力が育ってきている。このような学級(クラス)全体での話し合いの中で、みんなの前で発表するときの話し方、話し合いの約束事などを理解し、自分の発言をみんなに受け止められ、共感してもらえた経験をすることが、小学校においても自信をもって積極的に発言しようとする意欲や態度につながっていく。

## 小 学 校 教 育 と の つ な が り

### ①「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」につながる部分

- 学習の中で発見する喜びや、できるようになった喜びを味わう。
- 授業中、先生や友達と対話する中で、その言葉の意味を理解して、自分にはなかった気付きや発見を喜ぶ。
- 板書された書き言葉と補助的な絵、写真等を見て、質問の意味をよく聞いて理解する。
- 困った時や話したいことがある時、自分の言葉で考えて自分から伝える。



- 自分の名前を文字で書く。
- 問いに対して思ったこと、考えたことを文字で書く。
- 教室内、学校内にある表示や図、文字等の意味を理解する。

### ②「港区立小中学校 MINATOカリキュラム」の各教科につながる部分

**国語** (MINATOカリキュラム 国語 P4参照)

話すこと:身近なことや経験したことなどについて話す  
聞くこと:大事なことを落とさないように聞く  
1年生上「おはなし きいて」「あかるいこえで」  
話し合い:話題に沿って話し合う

1年生下「おみせやさんごっこをしよう」「これはなんでしょう」



**生活** (MINATOカリキュラム 生活 P4参照) 自分たちの生活

自分たちの生活は地域で生活している人々や働いている人々と、様々な場所で関わっていることを観察し、理解する

## 家 庭 教 育 と の つ な が り

- 園における様々な経験を家庭でも話題にし、子どもの思いや努力したことや頑張ったことなどを、自分の言葉で話そうとする気持ちを受け止めるとともに、話の内容が分からないときや言葉の言い回しが正しくないときには、よい聞き手となり言葉を引き出したり、正しい言葉遣いを教えたりして、話したい意欲を高めてもらう。
- 子どもが文字への興味をもち、自分から読んだり書いたりしているときには、正しい鉛筆の持ち方や姿勢も意識して見守ってもらう。